

以下の問題の回答を整理して A4 のレポート用紙にまとめたものを 7月19日の class の始まる前に提出してください。解答は返却しないので必要ならコピーをとっておいてください。

1. 次を ( $\models$  の定義に則して) 示せ:

(a)  $(A_0 \rightarrow (A_1 \rightarrow A_2)) \models ((A_0 \wedge A_1) \rightarrow A_2)$ ,

(b)  $((A_0 \rightarrow A_1) \rightarrow A_2) \not\models (A_0 \rightarrow (A_1 \rightarrow A_2))$ .

2. (a) 命題論理の論理式  $\varphi, \psi$  に対し,  $(\varphi \downarrow \psi)$  を  $(\neg\varphi \wedge \neg\psi)$  のこととして導入する. すべての命題論理の論理式  $\eta$  に対し, 命題記号と  $\downarrow$  のみを用いて組み立てられた論理式  $\eta'$  で  $\eta \models \eta'$  となるものが存在することを示せ.

(b) ブール関数  $f_{\downarrow} : \mathbf{2}^2 \rightarrow \mathbf{2}$  を  $f_{\downarrow}(0,0) = 1, f_{\downarrow}(0,1) = 1, f_{\downarrow}(1,0) = 1, f_{\downarrow}(1,1) = 0$  により定義する. すべてのブール関数は,  $f_{\downarrow}$  の (繰り返し) 合成によって得られる関数として表わせることを示せ.

3. 次の  $\vdash$  を補って, 上のシークエントから下のシークエントを導く LK での証明を作成せよ (証明は, 初式から始まる他の枝を持つものになってもよい):

$\Rightarrow (\neg\neg(\neg\varphi \vee \neg\psi) \vee (\neg\xi \vee \eta))$	$\Gamma, \neg\varphi \Rightarrow$
$\vdots$	$\vdots$
$\Rightarrow \neg\neg(\neg\varphi \vee \neg\psi), \neg\xi, \eta$	$\Gamma \Rightarrow \varphi$

4. 述語論理の論理式  $\varphi = \varphi(x, x_1, \dots, x_n)$  と変数記号  $x$  に対し,  $\forall x\varphi$  を  $\neg\exists x\neg\varphi$  の略記と思うことにするのだった. 任意の ( $\varphi$  に現れる非論理記号をすべて含む言語  $\mathcal{L}$  に対する)  $\mathcal{L}$ -構造  $\mathfrak{A} = \langle A, \dots \rangle$  と  $a_1, \dots, a_n \in A$  に対し,

$$\mathfrak{A} \models \forall x\varphi(a_1, \dots, a_n) \Leftrightarrow \text{すべての } a \in A \text{ に対し, } \mathfrak{A} \models \varphi(a, a_1, \dots, a_n)$$

が成り立つことを示せ.

5.  $\mathcal{L} = \{0, 1, +, \cdot, <\}$  とする. ここに  $0, 1$  は定数記号,  $+, \cdot$  は二変数の関数記号で,  $<$  は二変数の関係記号とする. 数学の慣習に倣って,  $+(t_0, t_1), \cdot(t_0, t_1), <(t_0, t_1)$  をそれぞれ  $t_0 + t_1, t_0 \cdot t_1, t_0 < t_1$  と略記することにする.

$\mathcal{L}$ -構造  $\mathcal{N} = \langle \mathbb{N}, 0, 1, +, \cdot, < \rangle, \mathcal{Q} = \langle \mathbb{Q}, 0, 1, +, \cdot, < \rangle, \mathcal{R} = \langle \mathbb{R}, 0, 1, +, \cdot, < \rangle$  を考える. ただし,  $\mathbb{N}, \mathbb{Q}, \mathbb{R}$  はそれぞれ自然数の全体 (0 を含む), 有理数の全体, 実数の全体として,  $0, 1, +, \cdot, <$  はこれらの数の領域での通常の  $0, 1$ , 加法, 乗法, 大小関係として, これらが, それぞれ言語  $\mathcal{L}$  の記号としての  $0, 1, +, \cdot, <$  の解釈となっているものとする.

$\mathcal{L}$ -論理式  $\varphi_0, \dots, \varphi_5$  をそれぞれ,  $\forall x\exists u\exists v(\neg u \equiv 1 \wedge \neg v \equiv 1 \wedge x \equiv u \cdot v), \forall x\exists y(x \cdot y < 0), \forall x\forall y(x < y \rightarrow \exists z(x < z \wedge z < y)), \exists x x \cdot x \equiv 1 + 1, \forall x\forall y(x < y \leftrightarrow \exists z y \equiv x + z), (\exists x (0 < x \wedge x < 1) \rightarrow \forall x\exists y y \cdot y \equiv x)$  とする (最後のものはパズル的な「ひっかけ」を含んでいることを注意しておく).

(a)  $\mathfrak{A} = \langle A, \dots \rangle$  を  $\mathcal{N}, \mathcal{Q}, \mathcal{R}$  のうちの1つとして,  $i < 6$  に対し, 主張  $\mathfrak{A} \models \varphi_i$  の (数学的な) 意味が何になるかを説明せよ. (たとえば,  $\varphi$  を  $\forall x\forall y x < y$  に対し,  $\mathfrak{A} \models \varphi$  は「すべての  $a, b \in A$  に対し  $a < b$  となる」という主張を表している (もちろんこの主張は  $\mathcal{N}, \mathcal{Q}, \mathcal{R}$  のどれでも成り立たない (たとえば,  $a = 2, b = 1$  としてみよ)).

(b) 各  $i < 6$  に対し,  $\varphi_i$  が  $\mathcal{N}, \mathcal{Q}, \mathcal{R}$  のどれで成り立ち, どれで成り立たないかを確かめ, それがなぜかを説明せよ.

以上.